

## インターン/ボランティアで参加しませんか?

ICAは通年でインターン/ボランティアを募集しています。皆さんも空いている時間などで、インターン/ボランティアに参加しませんか? 現在世界各地から来た4名のインターンが東京事務所では活動しています。

### インターン紹介



スウェーデンの大学で政治・開発学を勉強しているリンドマン・リピーカーです。2018年9月からインターンを開始しました。ICAでは参加型の国際開発を学び、将来修士課程に進学した後は、それらのスキルを活かしていきたいと思っています。



7月からインターンを行なっているレバノンから来たハッサン・ライアンです。途上国では教育問題や社会問題等の様々な課題が山積みになっています。ICAでのインターンの経験が、少しでもそれらの国々の人々に役立てることができればと思っています。

日本が大好きなタイ人のラータントン・サンハジャリンです。現在イタリアの大学院で、国際協力と開発学を勉強しています。9月からインターンを開始しました。勉強している内容が、現場でどのように応用できるか学んでいきたいと思っています。



国際ビジネスを勉強しているオランダ人のベイカ・ベテヘムです。9月からインターンを行なっています。ICAではファンドレイジングや地域開発のためのファシリテーションについて学んでいければと思っています。



### 駐在員紹介



濱田昌大  
(ネパール駐在員)

2018年3月からネパール事業調整員としてICAに参加し、4月からネパール駐在員へ。ネパールでは、震災復興事業の現地調整業務などに携わっている。以前は、化学メーカーで経理・財務の仕事に従事していたが、国際協力の道にワークシフトし、青年海外協力隊員としてフィリピンで活動を行なった。他にも、フィリピンの国際NGOで「イフガオ州の山岳少数民族の文化継承活動」や、日本の引きこもり支援のNPOの運営にも携わっている。



ネパール事業が開始してすぐに開かれたセミナーには、多くの村の女性も参加しました!

### イベント紹介 Global Festa 2018

今年も「グローバルフェスタ2018」に参加します! 皆さま、お誘い合わせの上、ICAのブースに遊びに来てください。

場所: お台場プロムナード(最寄駅: りんかい線東京テレポート駅、ゆりかもめ青海駅)、ブース番号196

日時: 2018年9月30日(土) - 31日(日)、10時~17時

### ご支援への感謝とお願い

日頃よりICAへのご理解とご支援、誠にありがとうございます。

ICAは世界で起きている自然災害、紛争、環境保全、貧困、ジェンダー等の問題を、住民と一緒に解決できるような活動を行なっています。皆様も一緒に世界各地へサポートを届けませんか? ご寄付や会員になることで、支援に参加することができます。ICAは東京都から認定を受けた特定非営利活動法人であるため、ご寄付を頂いた場合税制上の優遇措置を受けることができます。

どうぞご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

金融機関: 三井住友銀行

金融機関: ゆうちょ銀行

支店名: 成城支店(222)

口座番号: 00130-7-760837

口座番号: 普通3757300

口座名: 特定非営利活動法人

口座名: ICA文化事業協会

ICA文化事業協会

### ICA について

ICAは1970年代、独自に開発した「参加型の手法」等の20種以上の手法マニュアルを用いて、世界各地で地域発展、人材育成、組織開発、企業コンサルタントなどの業務を行っている国際的な組織です。現在、世界30カ国にICAの事務所があり、各国のICAは独立して活動をしています。ToP®と呼ばれるICA独自の手法は世界中で共有され、同一の手法を使いながら、様々な活動を行っています。ICAジャパンは、2014年から認定NPO法人となり、国内外で活動を広げています。また、現在までの約40年間で28カ国、185以上の事業を実施しました。

認定特定非営利活動法人ICA文化事業協会

〒157-0072東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F

TEL: 03-3484-5092 FAX: 03-3484-1909

Email: staff@icajapan.org URL: www.icajapan.org 4



# ICA Japan

## The Institute of Cultural Affairs

認定NPO法人 ICA文化事業協会 Newsletter 2018 Sept No.44



ネパールの事業地であるシンドゥパルチョークでは、住民対象の有機農業トレーニングを実施しています。農業専門家から有機堆肥作りを学んだ住民は、研修後自分の畑に堆肥をまき、野菜の種を植えました。山岳地帯である事業地では、栽培できる野菜の品種は限られています。そのため、有機農業を普及させることで、野菜の品質や収穫量を向上させる活動が今後も続きます。

### 会長挨拶

世界を変えるための17の目標(SDGs)の一つに「すべての人に健康と福祉を」があります。日本では100歳以上の高齢者は、統計を開始した1963年には約150人でしたが、1998年には約1万人、2009年には約4万人、2012年には約5万人、そして2016年には約6.5万人に増えました。2016年で75歳以上の後期高齢者は1691万人で全人口の約13%、65歳以上の前期高齢者以上は3460万人で全人口の約27%を占めています。医療や先進医療技術のおかげで高齢者数の増え方は著しく伸びています。今後は高齢者の為の政治組織、産業創生、市場開発、教育提供が強く求められてくるでしょう。これは地球的大な動きとなり、参加型文化をデザインするICA文化事業協会には、高齢者社会にあって、知恵の伝承パワーを生み出すエネルギーを集約させる役割が強く求められてくることになるでしょう。



会長 村山正

立教大卒。大手総合化学会社での取締役を経てICAの会長に就任。ファシリテーターとして、国内外の企業・自治体等で戦略策定指導も行っている。



## コートジボワール

2015年から実施していたコートジボワールの農村開発事業(外務省NGO連携無償支援資金協力)が、2018年3月に終了しました。事業では、青年層へ農業・養鶏・アグロフォレストリーの指導をすることで、地域産業の活性化を図るものでした。事業開始前、事業地は主要産業である農業が十分な利益をあげることができず、失業率が高い地域でしたが、3年間の事業で村には様々な変化が見られるようになりました。現在住民の中には事業を外部の支援に頼らずに、自分達で牽引していこうという姿勢が見られます。しかし、事業地は未だに貧困率が高いため、実施した事業の定着と持続発展に向け、現在4期目の事業を計画しています。



飼育方法について講義する駐在員神戸と現地スタッフ

## ネパール

2015年に発生したネパール大地震からの復興は、3年が経過した今でも、まだ道半ばです。現在事業を実施しているシンドゥパルチョークも、大地震で甚大な被害が出ました。2018年3月に開始したネパール大地震被災者支援事業(外務省NGO連携無償支援資金協力)では、シンドゥパルチョーク郡サンガチョク村にトレーニングセンターを建設し、被災住民を対象にした様々な生計向上トレーニングを実施しています。また、センターは日本の耐震基準を満たした建物となっているため、完成後は地域住民の防災センターとしても活用される予定です。

現在、センター建設と並行して、5村の住民へ生計向上トレーニングも実施しているため、今後住民の現金収入向上が期待されます。有機農業や縫製などのトレーニングは、住民の意見や要望を反映した活動となっており、実用的な取組みになっています。



トレーニングセンターの建設が開始され、日本の耐震基準を満たす基礎工事を行いました。

## 日本

福島(花植え活動):

2017年に福島原発事故の避難が解除された浪江町と南相馬市で、日本テラワダ仏教協会の支援を受け、仮設商店街や河川敷の緑化活動を実施しました。被災後殺風景になった街が花で彩られることで、少しでも住民の心の癒しに繋がれば幸いです。二つの町は、まだ復興が始まったばかりです。ICAは、本年も被災者の方々が生きがいを感じ、復興に向かって心身ともに健康に過ごせるような活動を行なっていければと思います。



浪江町の看板には「おかえりなさい」の文字が!浪江町では住民が少しずつ戻ってきています。

東京事務所(組織強化):

PanasonicのNPOサポートファンドの助成を受け、2018年1月から外部コンサルタントを招き、ICAの組織診断と組織基盤強化を行っています。理事、職員全員で今のICAのミッション、ビジョン、コアバリューなどを策定しました。また、冬には会員募集キャンペーンを実施する予定です。



外部コンサルタントを招き、理事研修会でファンドレイジングキャンペーンを紹介しました。

## 活動紹介

## ケニア

ロヤンガラニ地区(植林緑化):

ケニア北部のロヤンガラニ地区は、慢性的な干ばつ被害が続いています。ICAは、2015年から(独)環境再生保全機構の助成を得て、2018年3月までの3年間、環境再生と保全のための植林緑化活動を実施しました。活動によって住民の環境意識は向上し、現在では住民自らが様々な工夫をしながら育樹を楽しんでいます。また、村の景色も3年でガラリと変わり、今では緑がちらほら見られるようになりました。



緑のフェンスは住民の憩いの場となっています。

ロヤンガラニ地区(給食支援):



(株)テーブルクロスのスマホアプリをご存知ですか?アプリで飲食店を予約すると、飲食店が30円/一人あたりを途上国の子供達の給食に寄付するというものです。ICAはテーブルクロスから給食費の寄付を受け、タイタス・ゴヨニ小学校の児童441名に給食を配布しました。ロヤンガラニは首都ナイロビから850kmも離れているため、政府の支援も少なく、栄養失調の子供達がたくさんいます。この給食支援で少しでも児童の栄養状態が改善すればと願うばかりです。

(左)給食の支給を始めてから児童数は360名から440名に増えました。

イシヤ地区(一緑運動):

(公)国土緑化推進機構と藤沢東ロータリークラブの支援をうけ、マサイ族が多く住むイシヤ地区の3つの小学校で、1人の児童が1本の木を植樹・育樹する実践型環境教育の「一緑運動」を実施しました。子供達は活動を通して、木の大切さを楽しみながら学んでいます!

(右)初めての植樹に大興奮のキカヤヤ小学校の児童達



## インド

マディヤ・プラデーシュ州(目の健康調査):

三井化学(株)の「Do Green」活動では、インド農村部の住民を対象に目の検査や眼鏡の配布を行なっています。昨年度は指定部族(ビール族)が多く住むマディヤ・プラデーシュ州のジャブア郡で、検眼と眼鏡の配布を行いました。インド農村部は貧しく、多くの住民は目の健康を後回しにしています。そのため、目のトラブルが深刻化しており、失明する人も多くいます。今回の検眼で、白内障と診断された人には病院を紹介し、眼鏡が必要な人には処方箋に沿った眼鏡を配布しました。



学校でも検眼を行い、必要な生徒には眼鏡が配布されました。

マディヤ・プラデーシュ州(水環境):



古井戸は重機を使って数メートル掘り下げると、再び地下水が湧き上がってきました!

事業地は近年気候変動の影響で降雨量が極端に減り、慢性的な水不足が続いています。地下水量は減少しているため、多くの古井戸は枯れ、使用できなくなっています。そのため、TOTO(株)の水環境支援で、使用できなくなった古井戸6基の再生を行いました。古井戸再生では、井戸の数メートルの掘り下げと、外部から井戸へ土石の流入を防止するための防壁の設置を行いました。加えて、事業終了後も長期に渡って井戸が使用できるように、住民には「維持管理研修」を実施しています。2018年の雨季にはまとまった雨がりましたが、来年はどうなるかわかりません。井戸再生は緊急の処置に過ぎないため、今後は環境保全や再生の活動が必要になってくるでしょう。